第二言語習得における学習の動機付けと学習意欲
－中国人日本語学習者の事例－

坂本裕子

1　はじめに

日本における中国人の増加は顕著であり、それに伴い日本語を学習する中国人も増加の傾向にある。しかし、その中国人学習者の学習について、教師から「学習に集中できない」「授業に積極的に参加しない」などという話を耳にすることが多い。そこには変革する中国と日本という異文化による影響が予想される。もちろん、学習者だけの問題ではなく、教師が学習者とどう関わってくのか、その関わり方にも、状況を助長させている、あるいは、緩和させているなど、学習者に何らかの変化をもたらしている要因があるのではないかと考えた。それでは、現在の中国人学習者の現状はどのようになっているのか、その具体的事例を学習者の学習意欲に目を向け行った調査とその結果の一部を報告したい。

2　学習動機付け

2-1　第二言語習得研究における学習動機付け

第二言語習得研究において「動機付け」は、学習者の目標を成功に導く上で、重要な要因のひとつであると考えられている。これまで、主に英語を学習する学習者の動機付けに関しての研究が行われてきたが、90年代に入り、その研究は、社会的環境要因を中心としたものから、教育実践の場へと移行しつつある。

第二言語習得研究における動機付けには、言語レベルでは「統合的動機付け[1)]」「道具的動機付け[2)]」と大分割されることが多い。また、学習者レベルでは「達成動機付け」や「自信による動機付け」などと分類され、日本の教育学においては、「内発的動機付け[3)]」「外発的動機付け[4)]」と分類されることが多い。

2-2　日本語教育における学習動機付け

日本語教育においては、まだ始まったばかりの研究分野である。第二言語習得理論を応用した日本語教育の研究が盛んになり、学習者中心、学習者主体の日本語教育がさまざまな形で実践に移され、学習者の学習ストラテジーの分析や、それに対する教師の関わり方や教授法の研究も進められてきた。しかし、現段階では教師の日本語や日本文化などに関する知識や教授の方法、教室活動などの技術に関する研究にとどまっている。

2-3　中国における学習動機付け

中国における教育は、中国のWTO加盟に伴い大きな変革期を迎えている。経済のグローバル化は、より激しい人材の争奪戦をもたらし、要求される人材も変化している。具体的な動きとしては、国の後続力を持つ発展のために、高い資質の働き手を提供することを目的に、1999年から21世紀に向けての教育振興行動計画が実施されている。

ここで特筆すべきは、中国はこれまで多くソ連をはじめ、東欧の教育学に影響を受けてきたが、それらを伝統的教育とし、現代社会に合うよう、大きくは教育に関する骨組み自体の変換を行い、さらに、新しい教育観の確立を目指し、特に欧米の教育学を取り入れた、学習者個々の学習心理、学習論、学習スタイル、ストラテジーに関する研究も始められていることである。

3　中国人日本語学習者の背景

3-1　中国国内における中国人日本語学習者

表 1　中国国内における日本語学習者数

機関	度数(人)	割合(%)
初・中等教育	116,682	47.5
高等教育	95,658	38.9
学校教育以外	33,523	13.6

(1998 年度　国際交流基金による調査結果)

中国国内における学習者の増加も著しく、1998 年度、中国国内の総学習者数は、140,863 人にのぼっている。初・中等教育が 116,682 人と最も多く、高等教育 95,658 人、学校教育以外 33,523 人となっている。

3-2　日本における中国人日本語学習者

表 2　主な出身国・地域別在籍者の割合

出身国・地域	度数(人)	割合(%)
中国	19,189	62.6
韓国	8,621	28.1
台湾	1,043	3.4
その他	1,019	5.9

(2000 年度　財団法人日本語教育振興協会による調査結果)

日本語学習者の増加の中でも、中国人学習者の増加は顕著である。日本国内の日本語教育施設に在籍している外国人学習者は、78 か国・地域から 30,631 人となっている。この数は 1997 年度以降 4 年連続で増加しており、特に 2000 年度は対前年比 8,844 人増(40.6%増)となり、1993 年度の調査以降、最大の増加数となっている。表 2 に示したように、在籍者の主な出身国・地域の第 1 位は中国で、対前年度比 7,332 人増(61.8%増)の 19,189 人と全体の 62.6%を占め、第 2 位の韓国 8,621 人、全体の 28.1%、以下、他の国・地域を大きく引き離している。

4　調査と調査結果

4-1　調査目的

来日している中国人日本語学習者の来日理由や目的、学習に対する意識や態度、またその学習動機と学習意欲を知ると同時に、中国人学習者に学習意欲がわいた、あるいは喪失したきっかけや学習への動機付けとなった具体的な事例を知り、中国人日本語学習者に対する動機付け、また学習意欲の高め方について考察する資料を得ることを目的に行った。

4-2　対象および調査期間

対象者は、日本に滞在する中国人日本語学習者であり、私立大学留学生別科在学の中国人留学生 33 名、私立大学文系学部および文系大学院在学の中国人留学生 24 名、日本語学校(2 年コース)在学中の中国人日本語学習者　24 名、個人教授、市町村日本語研修コース、その他の国内の大学院・大学・専門学校在学中の中国人日本語学習者 25 名の合計 106 名であった。2002 年 10 月から 11 月の 1 か月にかけて、調査紙の配布、回収を行なった。

4-3　調査紙

平成 13 年に国立教育政策研究所内「学習意欲研究会」により実施された「学習意欲に関する調査」をもとに、成人の中国人日本語学習者に即するよう、項目に一部追加や削除を行ったものを作成した。アンケートは無記名とし、フェイスシート、選択式回答、記述式回答の構成になっており、全てに中国語訳を付記、回答も日本語、中国語両方を認めた。

5　アンケート集計結果概要

5-1　学習者の背景

5-1-1　対象者の性別・年代・日本滞在年数

表 3　性別

	度数(人)	割合(%)
男性	45	42.5
女性	59	55.7
無回答	2	1.9

表 4　年代

	度数(人)	割合(%)
10 代	2	1.9
20 代	90	84.9
30 代	9	8.5
無回答	5	4.7

表 5　日本滞在年数

	半年未満	半年～1 年	1 年～2 年	2 年～3 年	3 年以上	無回答
度数(人)	20	50	20	10	5	1
割合(%)	18.9	47.2	18.9	9.4	4.7	0.9

調査対象者は、男性 42.5%、女性 59%とそれぞれ約半数、年代は 10 代（10 代後半）が

1.9%、20代が84.9%、30代が8.5%と、成人に達している学習者が多く、日本滞在年数では、半年以上1年未満の47.2%で、半年未満の学習者と合わせると66.1%と半数を占めた。また、2年未満とも合わせると85.0%となり、来日2年未満の学習者が多かった。

5-1-2　日本語学習歴

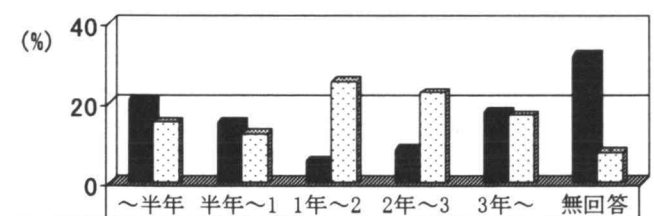
表 6　　（複数回答可 :総回答数 107）

	独学	家庭教師	学校								無回答
度数（人）	9	4								78	16
割合（%）	8.4	37.4								72.9	15.0
			小学校	初級中学	高級中学	大学本科	大学専科	夜間大学	専門学校	その他	無回答
（複数回答可		度数（人）	0	10	9	7	8	11	17	11	23
総回答数 96）		割合（%）	0	10.4	9.4	7.3	8.3	11.5	17.7	11.5	24.0

来日前、中国での日本語学習歴は、学校でが72.9%を占め、内訳としては、残念ながら無回答が24.0%ではあったが、2位以下は語学学校などの専門学校が17.7%、次いで夜間大学、その他の学校が11.5%であった。また、初級中学・高級中学での学習歴を持つ学習者もそれぞれ 10.4%、9.4%と、複数回答を認めているため、重複している学習者もいると思われるが、合わせて19.8%を占めていた。

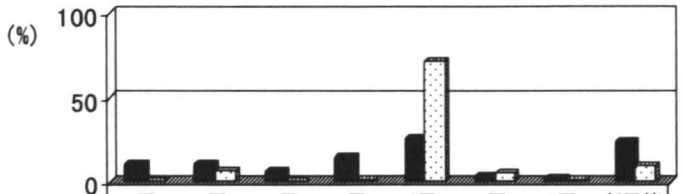
5-1-3　日本語学習時間

表 7　日本語学習期間



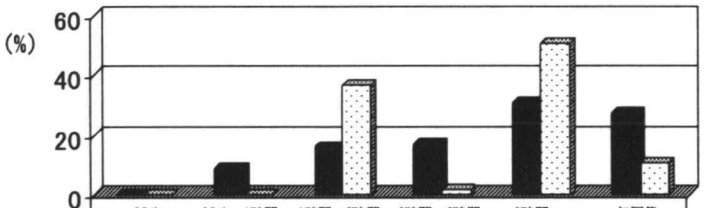
	～半年	半年～1	1年～2	2年～3	3年～	無回答
■在中国	20.8	15.1	5.7	8.5	17.9	32.1
□在日本	15.1	12.3	25.5	22.6	17	7.5

表 8　日本語学習時間(1 週あたり)



	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	無回答
■ 在中国	10.4	10.4	6.6	15.1	26.4	3.8	2.8	24.5
□ 在日本	0.9	6.6	0.9	1.9	71.7	5.7	1.9	10.3

表 9　日本語学習時間(1 回あたり)



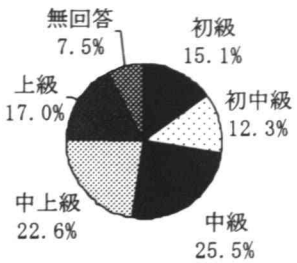
	～30分	30分～1時間	1時間～2時間	2時間～3時間	3時間～	無回答
■ 在中国	0	8.5	18	17	31.1	27.4
□ 在日本	0	0	38.8	1.9	50.9	10.4

中国における日本語学習は、1 週あたり 4、5 回があわせて 42.0%、1、2 回が 20.8%となっており、一回あたりの学習時間は 3 時間以上が 31.1%、学習年数は、初級・高級中学、あるいは大学本科、専科などで学んだと予想される 3 年以上が 17.9%となっているが、日本留学を目的とした短期集中のコースで学んだと思われる 1 年未満の学習者が 35.9%と最も多くなっていた。

日本では、1 週あたり 5、6 回が 77.4%、1 回あたり 3 時間以上が 50.9%と半数以上、また、1 時間以上 2 時間未満が 36.8%となっており、学校などで、ほぼ毎日 3 時間以上学習していることがわかる。学習年数は、ほぼ来日年数に比例しており、1 年未満が 54.8%と最も多かった。

5-1-4　現在の日本語のレベル

表 10



学習者がそれぞれの所属している日本語学校などでのクラスのレベル、及び自覚しているレベルを聞いた結果、初級・初中級が 27.4%、中級・中上級が 48.1%、上級が 17.0%となっており、中級レベルの学習者を中心にほぼ全レベルに及んだ。

5-1-5　日本語以外の外国語学習歴と学習外国語

表 11

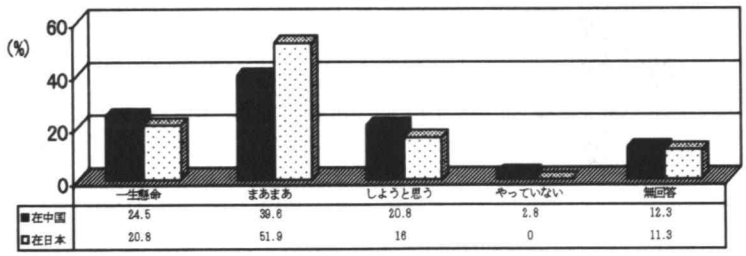
	有					無	無回答
度数(人)	81					23	2
割合(%)	76.4					21.7	1.9
学習外国語	英語	朝鮮・韓国語	ロシア語	その他	無回答		
度数(人)	79	1	1	2	2		
割合(%)	92.9	1.2	1.2	2.4	2.4		

日本語以外の外国語学習歴の有無に関しては、外国語の学習経験がある学習者は 76.4%、うち 92.7%が英語であり、学校での学習が 82.7%、6 年と答えた学習者も含め 3 年以上の学習が 77.8%であった。また、外国語学習歴がないと答えている学習者も 21.7%いた。

5-2　学習者の様子と学習意欲

5-2-1　勉強の様子

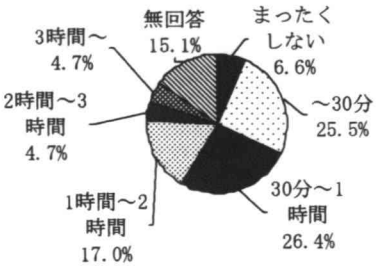
表 12



中国における勉強の様子については、「一生懸命やっていた」「まあまあやっていた」が64.1%、「しようという気持ちはあったが、やっていなかった」「やる気がなくやっていなかった」という学習者が23.6%であったのに対し、日本で現在の勉強の様子は「一生懸命やっている」「まあまあやっている」が72.7%と8.6%増えており、「しようという気持ちはあるがやっていない」という学習者16.0%、「まったくやっていない」という学習者は0%と、日本留学にあたって、意欲の向上が窺える。しかし、中国で「一生懸命やっていた」学習者が24.5%であったのに対し、日本で「一生懸命やっている」学習者が20.8%、「まあまあやっている」学習者が51.9%と、全体としてはモティベーションの低下が窺える結果となっている。

5-2-2　1日の学習時間

表 13



日本での現在の学校以外での学習時間は、「1時間未満」が51.9%と半数を占め、「2時間以上」学習している学習者も9.4%いたが、「まったくしない」という学習者も6.6%もおり、日本で「やる気がなく、やっていない」学習者がいないにもかかわらず、自宅学習

を行っていないという学習者の存在が明らかになった。

5-3　選択式回答に見る学習者の学習意欲

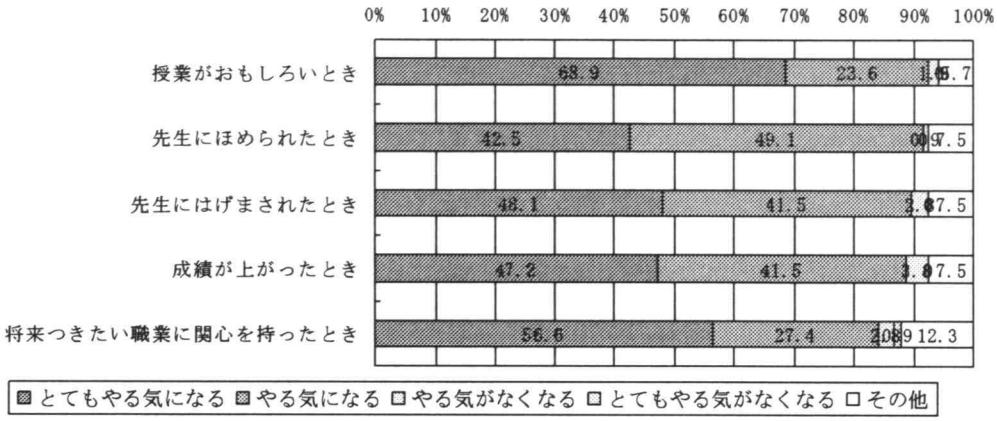
表 14　それぞれの項目における回答の割合　　（表内数値：%）

	とてもやる気になる	やる気になる	やる気がなくなる	とてもやる気がなくなる	無回答
①　成績が上がったとき	47.2	41.5	3.8	0	7.5
②　成績が下がったとき	18.9	44.3	25.5	4.7	6.6
③　テストや試験の前	39.6	42.5	10.4	0	7.5
④　授業がおもしろいとき	68.9	23.6	1.9	0	5.7
⑤　授業がつまらないとき	3.8	13.2	50.9	23.6	8.5
⑥　授業がよく分かるとき	45.3	37.7	10.4	0.9	5.7
⑦　授業がよく分からないとき	15.1	26.4	41.5	10.4	6.6
⑧　先生にほめられたとき	42.5	49.1	0	0.9	7.5
⑨　先生にはげまされたとき	48.1	41.5	2.8	0	7.5
⑩　先生にしかられたとき	23.6	33.0	23.6	8.5	11.3
⑪　宿題や作文などに先生がコメントを書いてくれたとき	25.5	52.8	3.8	0	17.9
⑫　自然に触れる体験をしたとき	36.8	36.8	3.8	5.7	17.0
⑬　地域の人々と触れ合う経験をしたとき	48.1	30.2	4.7	0	17.0
⑭　仲のよい友達ができたとき	39.6	31.1	2.8	1.9	24.5
⑮　ライバルが見つかったとき	40.6	40.6	1.9	0	17.0
⑯　友だちからはげまされたとき	28.3	52.8	1.9	0	17.0
⑰　友だちにけなされたとき	40.6	2.8	7.5	0	17.0
⑱　友だちの成績が自分よりよかったとき	29.2	48.1	3.8	0	18.9
⑲　自分の成績が友だちよりよかったとき	20.8	48.1	9.4	0	21.7
⑳　日本語能力試験などの試験を受けたり、資格などを取ろうと思ったとき	43.4	36.8	3.8	0.9	15.1
㉑　将来行きたい学校がはっきり決まったとき	52.8	27.4	3.8	1.9	14.2
㉒　将来つきたい職業に関心を持ったとき	56.6	27.4	2.8	0.9	12.3

学習者がどんなときに「とてもやる気になった」「やる気になった」か「やる気がなくなった」「とてもやる気がなくなった」かについて、上位５項目をまとめると以下のようであ

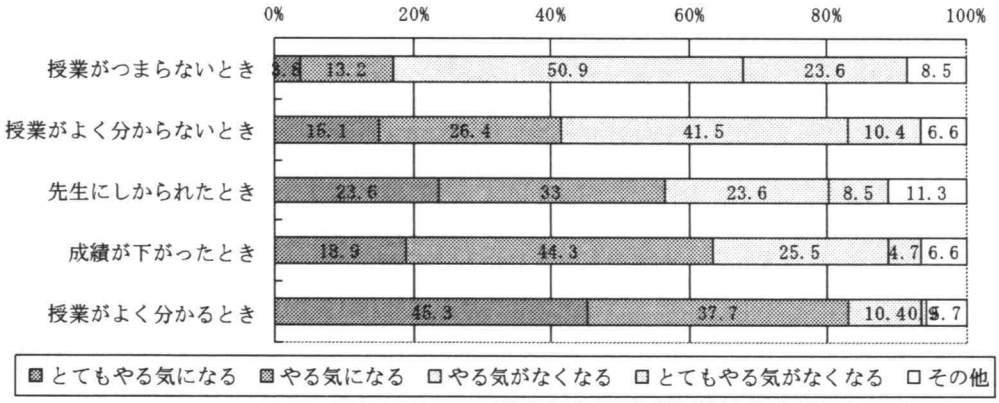
る。

表 15　「とてもやる気になる」「やる気になる」とき



1　授業がおもしろいとき　92.5%
2　先生にほめられたとき　91.6%
3　先生にはげまされたとき　89.6%
4　成績が上がったとき　88.7%
5　将来つきたい職業に関心を持ったとき　84.0%

表 16　「とてもやる気がなくなる」「やる気がなくなる」とき



1　授業がつまらないとき　74.5%　　4　成績が下がったとき　30.2%

2　授業がよく分からないとき　51.9%　　5　授業がよく分かるとき　11.3%

3　先生にしかられたとき　32.1%

5-4　記述式回答にみる学習意欲

5-4-1　学習意欲がわいた言葉に関して

表 17　だれに言われたか。

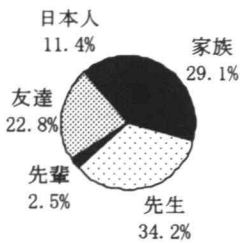
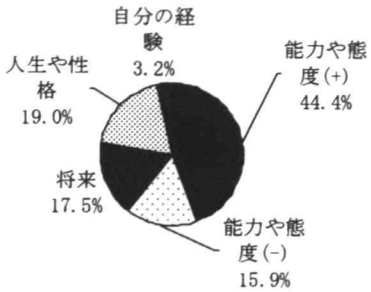


表 18　言われた内容

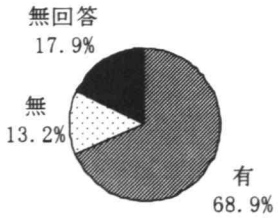


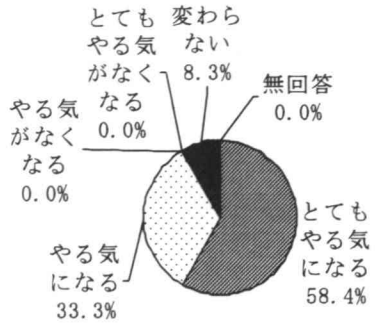
それぞれ誰に、何について言われたかについては、教師からが 34.2%、家族からが 29.1%、友達からが 22.8%、うち日本人の友達からが 3.8%で、その他の日本人とも合わせると 34.2%に上っている。言われた内容については日本語能力や学習態度についてが、60.3%と半数以上を占め、そのうち「上手になった」「よくできた」「頑張れ」などプラスイメージの言葉が 73.3%「上手ではない」「言いたいことがわからない」などマイナスイメージの言葉が 26.3%となっており、プラスイメージの言葉によって意欲がわいていることが分かる。言われた状況の場面では「授業中」「日常の会話」がそれぞれ 32.4%、心理的状況では「成績が下がったとき」「失意のとき」が 46.4%と約半数を占めていた。

5-4-2　勉強のことで先生にほめられた経験に関して

表 19　勉強のことで先生にほめられたことがあるか。

表 20　ほめられたときの勉強に対する態度

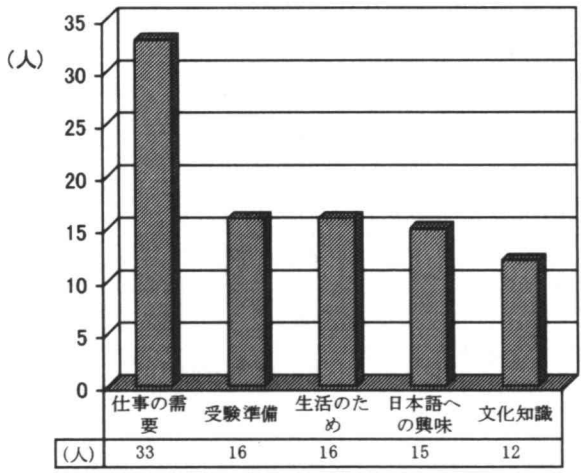




勉強のことで先生にほめられたことがあるかという問いに対して 68.9%の学習者があると答え、「授業中みんなの前でほめられた」という回答が 69.5%を占めていた。ほめられた内容は、学習や学習態度についてが、80.1%で、その後の変化について、「とてもやる気になる」「やる気になる」が 91.6%、「とてもやる気がなくなる」「やる気がなくなる」は 0%、「変わらない」8.3%と、ほめられたことにより 90%以上の学習者がやる気になったことがわかる。しかし、ほめられたことがないと答えた学習者も 13.2%いた。

5-5　学習目的

表 21　アンケート回答者の学習目的　　（複数回答可。総回答数 136）



第 1 位は「将来の就職のため」で 24.3%、次いで、「大学や資格試験の受験準備のため」と「日本で生活するため」が同率第 2 位で 11.8%、第 4 位は「日本語という言語そのものへの興味」で 11.0%、第 5 位は日本のドラマやゲームなどへの興味関心も含めた「日本の文化に関する知識をえるため」で 8.8%であった。学習目的から学習者の動機付けを考えるならば、総回答数の約半数が「道具的志向」による動機付けがなされているといえる。

6　考察

6-1　学習意欲とコミュニケーションの関係

調査結果からも分かるように、来日している中国人学習者の多くは、成人学習者でありながら内発的動機が薄い、あるいは弱くなっている[5]。しかし、教師からほめられたとき、励まされたときに学習意欲が高まっており、それが外発的な動機付けの要因としてなりうるといえる。また、当然のことのようであるが、「授業がおもしろいとき」学習意欲がわき、「授業がつまらないとき」学習意欲がなくなるという結果であり、これは、国立教育政策研究所が、日本の児童・生徒に対して行った調査結果と同じであった。もし、必要性を重視し、中国人学習者の好む学習スタイル、教室活動を通して教授を行おうとすると、学習者が望んでいる日本語力が身につけられるかという疑問が生じる。さらに、学習者は「テストなどの成績がよかったとき」にも、学習効果が実感でき、それが学習意欲を高める要因にもなっていることが分かる。同時に、記述式回答を見ると「勉強してからすぐ使えるとき」「勉強した内容を覚えて利用できるとき」「地域の人々と触れ合う経験をしたとき」「仕事やアルバイトなどで、実際日本語が使えたとき(たとえば、アルバイトでお客様に対してどんな言い方がもっと丁寧か知りたいとき)」「日中友好協会や日本語教室でいろいろな友達ができたとき」など、日本人とコミュニケーションがとれたとき、あるいは、とれなかったときに、学習効果やその不足を感じ、学習に対する意欲も高まっていたのである。つまり、コミュニケーション能力が高められるような教授を行えばいいということになる。

6-2　学習意欲とクラス内の環境

教室内におけるさまざまな活動も、学習意欲や動機付けに何らかの影響を与えていると予測される。そこで、特に学習者同士の関係について見てみると、自身と友達との成績の相関関係も学習意欲に影響を与えていることが分かった。それは中国人学習者の持つ背景によるものだけでなく、成績が最も身近であり、自身の目標などに対する距離も測れ、目に見える形での自身の学習に対する評価であることからも、自然なことのように思われる。しかし、学習者にとって、友達からの励ましや非難なども、学習意欲の向上に影響を与えていることも見過ごせない。それを利用すれば、教室内において学習者が関わりあい、相互に働きかける活動も、中国人学習者の言語習得に有効であると考えられる。しかし同時に、学習者の中に内在する学習への抵抗として、クラスの他の学習者からの評価が存在しているといえる。これがコミュニカティブな活動に対する中国人学習者の無意識的な抵抗になってはいないだろうか。本調査においても、授業や日常生活、特に対話中において、その日本語能力をほめられたりけなされたりすることで学習意欲がわいており、これは発話に際しては評価が伴うということが、学習者の中に無意識のうちに存在していることを示しており、授業中のコミュニカティブな教室活動に対しても、条件反射的ともいえるような、無意識的な抵抗が大きくなってしまうと考えることができるのである。しかし、これをうまく利用することで、学習者のコミュニカティブな教室活動に対する抵抗を小さく

し、より意欲を高める工夫ができるということも考えられる。そのために、教室活動において教師がこのような抵抗の存在を認識すると同時に、教室内にいる他の国の学習者の個々のアイデンティティを尊重しながら、学習者同士が学習にプラスの効果を与えることができるような関係の作れるクラス環境作りが重要である。

6-3　学習意欲と教師の関わり

「授業がよく分からないとき」学習意欲がなくなり、「授業がよく分かるとき」も意欲がなくなっている。学習が学習者のレベルに合っていることはもちろんだが、中国人学習者の学習意欲を高めるためには、少し高いレベルのものに挑戦するということが有効であるといえる。しかし、当然のことながら難しすぎれば、学習者に「分からない」と評価され、かえってその学習意欲を低下させてしまう。そこで教師は、本調査結果にみられた外国語学習歴がない学習者が 21.7%も存在するという現実をふまえた上で、教授法を考え工夫していく必要がある。

また、成人の学習者でありながら、内発的な動機付けの弱いあるいは失いかけている中国人学習者に対しては、教師による学習支援と同時に、外発的な動機付けを支援することが重要である。学習者が自身で学ぶ動機付けができ、その方法を選択し、自身の能力を伸ばすことが、学習者中心・学習者主体の言語教育であるなら、それができる環境を作ること、それができない学習者に対しては、学習者が自身で学ぶ動機付けを支援することから教師の支援が必要であり、最終的には学習者が自身で学習の動機を持ち、学習を進めることができると考えられる。その際、教師の「ほめる」「励ます」という行動や関わりが学習意欲の向上に有効であることが、本調査結果から分かったが、ほめられた経験がないという学習者も 13.2%いた。中国における教育学では、教師のほめ方や励まし方にも言及されており、そのような環境にあった学習者に対して、学習者一人ひとりのいいところや成長を見つけ、ほめたり励ましたりすることは有効であるといえるであろう。学習者の動機付けを支援する意味でも、学習意欲を高める上でも、教師の学習者との関わり方を考えていく必要があるといえる。

要するに、教室活動において、①クラスの他の学習者と刺激し合える関係作りができる環境作り②学習者に適した教材研究と学習者のレベルや学習スタイルの嗜好性の把握③常に学習者の興味や関心などに興味を持ち続け、それを授業に織り交ぜることで、行われている教室活動が自分に関係があるという意識を持たせること④中国人学習者にとって、より現実的な状況において日本語が習得できる環境作り、という外発的な動機付けから、自然に内発的な動機付けが強くなるようにすることが教師のできることであるといえる。

日本国内の日本語教育機関において、中国帰国者や、特定の中国人学習者だけを対象とした教育機関でない場合、1つのクラスの中にはさまざまな国籍や背景を持った学習者が存在している。財団法人日本語教育振興協会の調査(2000　表 2)による学習者の出身国・出身地域の割合を、1クラスの人数を 20 人として、単純に1クラスあたりに平均して換算

すると、クラスの半数を超える12、3人の中国人学習者が存在することになる。この学習者のとる行動がクラスの雰囲気を作り、また、他の学習者に与える影響も大きいといって過言ではないだろう。中国人学習者を含め、クラスの一人ひとりの学習者のそれぞれの目的や夢を実現させるためにも、中国人学習者の学習意欲を高めることは、教室活動において重要なことであると考えられる。

6-5　日本の教育学における学習意欲を高める研究からの考察

日本国内における調査は小学生、中学生、高校生を対象に行った結果であり、本調査対象である中国人学習者とはその本質が異なる。しかし、結果に共通性が見られたことから、日本の教育学における研究にも注目してみたが、それらをそのまま日本語教育に持ち込むことは、成人の学習者に対する教授であること、日本語教育の目的が日本国内における学校教育と異なること、異文化における第二言語の教授であること等から不適切であるかもしれないが、今後日本語教師が自身の教授や教室活動を振り返り、学習者の学習に対する態度や学習ストラテジー、要求などを知るためのヒントがあるように思われる。同様に中国の教育における学習動機付けや学習意欲の高め方についても考えていく必要がある。

7　まとめ

中国人学習者が自身で内発的な動機付けができるように支援するために、教室や実際の社会において日本語が使えたという喜びを味わえるような場面を提供しながら、その際に生じる情意フィルターを下げる、教師のさまざまな形での支援が必要だと考えられる。そこでは、授業など教室活動において、学習者一人ひとりのいいところや成長を見つけ、ほめたり励ましたりすることにより、個々人を尊重することが、中国人学習者に対しても有効であるといえる。そうすることで、本来成人である「学習に集中できない」「授業に積極的に参加しない」というような中国人学習者にも、学習者自身が学習の内発的な動機付けができるようになり、自立学習への移行を促進させることができると考えられる。

【注】

1　目標言語話者の集団やその文化、言語をもっと知り、そこに溶け込みたいから学ぶというようなもの。
2　よい仕事や待遇を得るためや、大学入学のためなど。
3　個人の学習に対する動機付けの本質的部分とされる。
4　他の人々や環境から影響を受けたり強化されたりするものとされる。
5　外国語習得研究および第二言語習得研究においては、通常、成人の学習者は自身の中に動機付けがなされていると考えられており、それを大前提に学習論、教授論が展開されてきている。

【引用資料・参考文献】

有泉芳彦(2000)『学習者にやさしい日本語教育：Andragogyの視点から』「世界の日本語教育　日本語教育論集10」

伊東祐郎(1994)『日本語指導法：個性と学習ストラテジーからの一考察』東京外国語大学留学生日本語教育センター論集20号

王淑荣(1996)『中国における外国語教育のなかの日本語教育』「世界の日本語教育　第4号　日本語教育事情報告編」国際交流基金日本語国際センター

岡崎眸・伊藤孝恵・杉浦まそみ子・高橋織恵・張顥・徳永あかね・村上律子(1999)『分かる授業は満足する授業か―社会人学習者の視点から―』「日本語教育」102号

学習意欲研究会編：代表富岡賢治(2002)『学習意欲に関する調査研究：最終報告書』学習意欲研究会（国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部内）

倉八順子(1992)『日本語学習者の動機に関する調査―動機と文化的背景の関連―』「日本語教育」77号

倉八順子(1998)『コミュニケーション中心の教授法と学習意欲』風間書房

厳安生(1996)『中国における日本語教育の現状』「世界の日本語教育　第4号　日本語教育事情報告編」国際交流基金日本語国際センター

下山剛(1995)『学習意欲と学習指導：生きた学力を育てる』学芸図書出版

蘇徳昌(1980)『中国における日本語教育』「日本語教育」41号

辰野千寿(1977)『学習意欲の高め方』日本図書文化協会

土屋澄男(2002)『英語学習指導における内発的動機づけと外発的動機づけ』文教大学文学部共同研究費による英語学習の動機づけに関する研究―第1次報告書―文教大学・英語動機づけ研究会編

縫部義憲(1991)『日本語授業の「人間化」の工夫―外国語相互作用システムの分析―』「日本語教育」75号

橋本洋二・平田マチ子・田崎和子(1999)『「コミュニカティブ」な教室活動に対する学生の受けとめ方―COLTによる中国系・非中国系学生の比較―』「日本語教育」103号

平岡忠編(1983)『学習意欲を高め自主性を伸ばす授業』明治図書出版

三矢真由美(1999)『能動的な教室活動は学習動機を高めるか』「日本語教育」103号

Zoltan Dornei (2001)「Motivational Strategies in Language Classroom」Cambridge Language Teaching Library

Gardner(2001)「Integrative Motivation and Second Language Acquisition」『Motivation and Second Language Acquisition』

南京师范大学教育系编(1984)「教育学」人民教育出版社

林崇德(2003)「学习与发展(修订版)－中小学生心理能力发展与培养」北京师范大学出版社

刘芳总主编　关鸿羽・白铭欣主编(2001)「中小学教师自修教程　提高教与教学质量的策略与方法」(第2版)中国和平出版社

学習意欲研究会編：代表富岡賢治(2002)『学習意欲に関する調査研究：最終報告書』学習意欲研究会（国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部内）
倉八順子(1992)『日本語学習者の動機に関する調査—動機と文化的背景の関連—』「日本語教育」77号
倉八順子(1998)『コミュニケーション中心の教授法と学習意欲』風間書房
厳安生(1996)『中国における日本語教育の現状』「世界の日本語教育　第4号　日本語教育事情報告編」国際交流基金日本語国際センター
下山剛(1995)『学習意欲と学習指導：生きた学力を育てる』学芸図書出版
蘇徳昌(1980)『中国における日本語教育』「日本語教育」41号
辰野千寿(1977)『学習意欲の高め方』日本図書文化協会
土屋澄男(2002)『英語学習指導における内発的動機づけと外発的動機づけ』文教大学文学部共同研究費による英語学習の動機づけに関する研究—第1次報告書—文教大学・英語動機づけ研究会編
縫部義憲(1991)『日本語授業の「人間化」の工夫—外国語相互作用システムの分析—』「日本語教育」75号
橋本洋二・平田マチ子・田崎和子(1999)『「コミュニカティブ」な教室活動に対する学生の受けとめ方—COLTによる中国系・非中国系学生の比較—』「日本語教育」103号
平岡忠編(1983)『学習意欲を高め自主性を伸ばす授業』明治図書出版
三矢真由美(1999)『能動的な教室活動は学習動機を高めるか』「日本語教育」103号
Zoltan Dornei (2001)「Motivational Strategies in Language Classroom」Cambridge Language Teaching Library
Gardner(2001)「Integrative Motivation and Second Language Acquisition」『Motivation and Second Language Acquisition』
南京师范大学教育系编(1984)「教育学」人民教育出版社
林崇德(2003)「学习与发展(修订版)－中小学生心理能力发展与培养」北京师范大学出版社
刘芳总主编　关鸿羽・白铭欣主编(2001)「中小学教师自修教程　提高教与教学质量的策略与方法」(第2版)中国和平出版社
传道春主编　张乐天・邓银城・范安平副主编(2000)「师范院公共课教材　高教版　教育学」高等教育出版社
张大均主编(1999)「全国教育硕士专业学位试用教材　教育心理学」人民教育出版社
叶澜(1991)「高等学校文科教材　教育概论」人民教育出版社
章伟民・曹揆申(2000)教育科学分支学科丛书「教育技术学」人民教育出版社
路海乐主编(2002)「教育心理学」东北师范大学出版社

传道春主编　张乐天・邓银城・范安平副主编(2000)「师范院公共课教材　高教版　教育学」高等教育出版社
张大均主编(1999)「全国教育硕士专业学位试用教材　教育心理学」人民教育出版社
叶澜(1991)「高等学校文科教材　教育概论」人民教育出版社
章伟民・曹揆申(2000)教育科学分支学科丛书「教育技术学」人民教育出版社
路海乐主编(2002)「教育心理学」东北师范大学出版社